

# 低侵襲で安全な医療を実践する 脳神経外科専門病院

医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院(明石市) 理事長・院長 大西英之



大西英之院長は、米ベストドクターズ社より、2008年〜2009年、2010年〜2011年、2012年〜2013年、2014年〜2015年、2016年〜2017年と5回連続でベストドクター(Dr. Best Doctors in Japan)の一人として選ばれています。またティーベック社より、2014年〜2017年、2017年〜2020年のドクターオブドクターズネットワークの優秀専門臨床医としての認定も受けておられます。優秀専門臨床医推薦基準は「評議員本人もしくは、家族が入院や手術が必要となった場合に、お願いしたいと思えること」「患者からも医師からも信頼がおける高いレベルの専門性を有すること」「人間味豊かで患者の立場にたった治療を行えること」「現役の臨床医であること」そして選考基準は「評議員全員が選考」「評議員一人でも反対があった場合選考されない」だそうです。大西院長にお話を伺いました。

最近の医療界の動きはどうですか。  
大西 医師の働き方改革が言われていますが、今まで特に急性期の医

師と言え、当直明けでも続けて働いたり、超勤も付けていないような人たちがいますが、楽な方に流れる傾向は否めません。「赤ひげ先生」は理想主義的で、あまりにも偏った方向で、悪影響を与えてきました。当然の権利を主張していかないと医療界全体の発展はありません。根本のところから見直していかなくては、「お医者さんがお金をことを言うなんて」と言われる風土では、将来の発展性が損なわれると思います。パイが小さくなつては大きく育てていくこともできません。相応の対価を支払わないと、良い人材が集まらないのは当然のことです。

「レジデント」という言葉がありますが、これは「レジデンス(住宅)」から来ています。病院に住み込みで勉強する医者といった発想です。若い時は、専門医になるまではそれくらいと思っていました。アメリカではドクターは独立していて、いくつかの病院と契約して手術を行えばドクターズフィーが入ります。日本でもせめて専門医になったら、給与を上げるようなメリハリも必要です。年功序列のような給与システムは医療界には合っていないと思います。

大西 明石駅前が開院した大西脳外科クリニックは単体ではまだ赤字ですが、明石駅は明石市の東端にあり、東部の患者さんが増えてきています。そして必要な方は病院の方で手術をされますので、総合的にはプラスになっています。

大西脳神経外科病院は2000年に82床で開院しましたが、2013年に南館を建てて急性期病棟を40床増床して122床になり、2017年に回復期病床31床を増床、計153床の病院になりました。この5年間で倍近くの規模の病院になったことになりました。

またこの5年間は、2つの国際学会を開催したり、日本の臨床脳外科学会全国学会を主催したり、結構忙しく活動してきました。昨年はクリニックを開院しましたし、毎年大きなイベントがありました。今年にはハード面での特別なイベントがないので、この5年間を振り返って、今後の5年間をどうしていくのかを考える、振り返りの1年しようと思っています。

職員に対し、今年1年間の活動方針を入社式で話をしたので、大きな目標として「スマートな医療」を掲げました。スマートな医療とは、医療の質の向上、病院経営の改善、職員の卒後教育を3つの柱としています。

医療の質の向上はどこでも言われていると思いますが、医療の安全、常に低侵襲な高度医療を目指して、負け組と勝ち組の病院が出てきて、ますます患者さんは集中

して行く傾向にあるので、勝ち組に入っていくかなくてはなりません。そのためにも、低侵襲な医療を常に新しく開拓していかなくてはなりません。当院で新しい方法を開発していくのだというくらいの気持ちでやって欲しいと思っています。

## 今年度は振り返りの1年 目標は「スマートな医療」

病院経営の改善に関しては、おかげさまでずっと黒字でやってきていますが、高齢化社会になると医療費が上がってくることはどうしても避けることができません。その中で医療経済を無視することはできませんから、何をしたらいいのか。無駄のない医療を心掛けるということだと思います。例えばある高齢の患者さんのお薬手帳を見てもみすと、内科で3〜4種類の薬、整形外科で腰痛に貼り薬の他3〜4種類、脳卒中で抗血栓薬などをもらい、頻尿なので泌尿器科で薬をもらい、眠れないので睡眠導入剤をもらっている。合計20種類近くの薬をもらっている人は珍しくありません。

卒後教育研修制度に関しては、ドクターが学会に参加するといったことだけでなく、看護師さんには各部門専門の認定看護師などがありますし、薬剤師さんもそうです。放射線の技士や事務職員にも様々な資格があります。病院は非常に人の手間のかかる職場です。人がしっかりといていなくて、いい医療は行えません。年間1200万円程度を研修・教育費に使っていますが、さらに充実させていきたいと思っています。毎年外部から講師に来てもらい、教育してもらっています。倫理的な問題や医療安全、感染防止など様々な問題です。また幹部職員を集めて、一泊二日で研修会も行ったりしています。幹部職員にはマンツーマンのコーチングも受けてもらっています。今年ソフトの充実に入力を入れて、次の5年間をどうするのかしっかりと考えていきたいと思っています。

職員に対し、今年1年間の活動方針を入社式で話をしたので、大きな目標として「スマートな医療」を掲げました。スマートな医療とは、医療の質の向上、病院経営の改善、職員の卒後教育を3つの柱としています。

医療の質の向上はどこでも言われていると思いますが、医療の安全、常に低侵襲な高度医療を目指して、負け組と勝ち組の病院が出てきて、ますます患者さんは集中

して行く傾向にあるので、勝ち組に入っていくかなくてはなりません。そのためにも、低侵襲な医療を常に新しく開拓していかなくてはなりません。当院で新しい方法を開発していくのだというくらいの気持ちでやって欲しいと思っています。

昨年、クリニックを作られましたし、リハビリにも力を入れておられたり、積極的に活動されていますね。

これはやはり国全体で考えていかなくてはならないのではないのでしょうか。無駄のない効率的な医療を考えていかなくてはならないと思います。無駄を省くという目が必要です。当たり前のことですが、エビデンスに基づいた医療は、医療経営の面からも言えると思います。医療廃棄物の問題も大きいです。最近瓶の点滴などはなくなりまして、医療に使用したものを廃棄するにはかなりの費用がかかります。小さな金額でも年間になると大きな、何千万円という数字です。光熱費や事務用品、コピー代などもバカになりません。ささやかなことですが、病院全体で意識を持つことが重要だと思っています。

当院は脳神経外科の専門病院ですから、脳腫瘍、脳梗塞や脳出血、クモ膜下出血などの脳卒中、頭部外傷や脊椎・脊髄損傷あるいはアルツハイマー病や脳血管性痴呆症、パーキンソン病などの治療を、最新の設備と最高のスタッフで最善の医療を目指していきます。また、市民公開講座や高齢者大学などを通じて脳卒中や成人病の予防に対する知識の普及、脳ドックを中心とした検診システム、半身不随や言語障害に苦しんでいる人々のリハビリテーションや社会復帰への援助、痴呆性老人や寝たきり老人の介護などフィランソロピーの精神に則った活動を通じて、人々の健康と社会福祉に貢献していきたいと考えています。